

福島県の“けもの”関係者を繋ぐ

けものネットワークふくしま 2025 年度交流会報告

鉄谷 龍之¹、佐藤 洋司²

(1. ワイルドライフマネジメント事業部 福島事業所、2. けものネットワークふくしま代表)

2025 年 12 月 6 日に、「けものネットワークふくしま」(以下、けもネット) 2025 年度交流会が開催されました。本稿では、代表である佐藤と、初開催である 2022 年度から参加者として、2025 年度はスタッフとして参加した鉄谷から、けもネットと交流会について紹介します。

まず、佐藤から発足の経緯を紹介し、次に、鉄谷からけもネットの概要と 2025 年度交流会について報告します。最後に、佐藤から今後の活動について述べます。

■ けもネット発足の経緯

「けものネットワークふくしま」代表の佐藤と申します。実は私は 1990 年前後に、2 年間野生動物保護管理事務所 (WMO) に在籍していましたが、フィールドノートに執筆するのは初めてで、感慨深く思っています。WMO と言えば、先日ある学会で在籍中同僚だった白井さんに会え、いろんな意味でお変わりなかったことにびっくり…、いや、うれしく思ったところです。

さて、けもネットは福島県内で野生動物、特に哺乳類に関して活動している方をゆるく繋いで情報交換を行うという目的で、2022 年に発足しました。私からはそれまでの経緯を少し紹介したいと思います。

福島県内では 1990 年代から野生動物に関わる方々の活動が活発になってきました。主なところでは、鳥獣被害対策、レッドデータブック策定、傷病鳥獣の保護・リハビリ、市町村史における生息状況調査などです。さらに 2011 年の東日本大

震災と原発事故後には、多くの研究機関が事故の影響を調査するため様々な活動を行ってきました。

この中で特筆すべきなのが、「福島サルの会」の活動です。この会は、果樹地帯である福島市周辺地域のニホンザルの被害対策を進めるため、会の事務局の呼びかけにより集まった有志が、福島市や農協の支援を受けつつ、発信器装着群を中心にカウント調査を行う、任意団体でした。毎年 12 月に 2 週間ほどの調査期間が設定され、それぞれ参加可能な日に、県内の野生動物関係者が一堂に集まりましたが、会員以外にも広く呼び掛けたため、東京の専門学校からの学生なども多数参加していました。2 週間の中でも特に人数が多く集まる夜は、大宴会だけでなく参加者の一部から活動発表も行われ、県内野生動物関係者の一大イベントとして位置づけられていました。残念ながら現在、福島市や農協のサル対策の取り組み方針の変化や、中心となっていた農協職員が転職したことなどから、福島サルの会の活動は休止しています。鳥獣被害対策については現在市町村の一部に配置されている福島県鳥獣被害対策市町村専門職員（多くは非正規職員）を中心に行われています。

福島サルの会の活動がなくなるとともに、県内の野生動物関係者が集まる機会がなくなり、それぞれ個別に活動するようになりました。この中で福島県鳥獣被害対策市町村専門職員は、まだ経験も少なく役場の中には相談できる方もほとんどいないという現状でした。他の活動についても、県内の野生動物の動き、それに関わる人の動きなど、情報交換の必要性が求められてきました。野生動

物関係者というのは、一般社会の中で野生動物について自由に意見交換できる場が少なく、そのような場を作って、ついでに楽しい酒飲みをしたいという思いが私にはありました。同じ思いを持っていたかどうかはわかりませんが、サル会活動に参加していた者の中から、情報交換をするネットワークを作らしようという声が上がリ、けもネットが設置された次第です。

現在のけもネットの活動、交流会の様子については、鉄谷さんから紹介したいと思います。

■ けもネットと交流会

けもネットは、「鳥獣被害対策の活動、原発事故による影響調査、レッドリストに関する調査、傷病鳥獣保護活動、観察会による普及啓発活動など、福島県内で野生動物（哺乳類）について活動している“けもの関係者”のつながりを創出し、円滑な連携を図ること」を目的としています。要するに、どのような分野であれ、福島県の野生動物関係者を繋げ、情報交換していこうという団体です。

現在の主な活動内容は、交流会の開催、メーリングリストによる県内イベントについての情報発信や会員同士の情報交換です。

交流会は、年1回、毎回テーマが設定され、開催されます。各回のテーマ等を表1に示しました。各回のテーマは、参加者アンケート等を参考に検討されますが、内容はけもネット自体の目的である“繋がり”を意識したものとなっています。参加者の所属としては、福島県の行政職員や研究者、市町村からは地域おこし協力隊が多くなっています。また、県内で野生動物調査等を行う民間企業、その他団体は、NPO法人や財団法人であり、調査等を行う団体や自然関連施設の管理を行っている団体も参加してくれています。大学からは、研究者や学生の参加があります。

毎回、様々な発表、パネルディスカッション、ワークショップが行われ、“ふくしまのけもの”に多様な関わり方をしている人々が集まり、意見交換を行い、交流を深めています。なお、最後には必ず懇親会が開かれ、夜中まで交流が続きます。

表1. 交流会の概要

開催日	テーマ	開催地	参加人数
2023/2/18	けものネットワークふくしま はじめの一步	伊達市	43
2023/12/9	社会構造の変化と野生動物 ～どうなる？！“ひと”と“けもの”の陣取り合戦～	福島市	44
2024/9/28	普及啓発	川俣町	20
2025/12/6	薄い繋がりを濃くする、無い繋がりを創出する	三春町	26

表2. 所属別の参加者数

所属	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	延べ数
福島県	11	10	3	7	31
市町村	12	5	2	2	21
民間企業	8	7	5	4	24
その他団体	8	11	5	10	34
大学	4	10	5	3	22
国	0	1	0	0	1
合計	43	44	20	26	133

■ 2025 年度交流会

4 回目となった 2025 年度の交流会は、「薄い繋がりを濃くする、無い繋がりを創出する」をテーマとして、開催され、26 名の参加がありました。けもネットの目的に立ち返るテーマ設定であり、いつもに増して内容も交流に重きが置かれました（表 3）。

開会挨拶の後に行われた参加者の自己紹介は、1 人 3 分と長めの時間が設定され、それぞれがどのように“ふくしまのけもの”と関わっているか等が話されました。昼休憩を挟み、午後は、話題提供とワークショップが行われました。

話題提供は、その後のワークショップに向け、参加者の前提となる知識を揃えるために、各種の基本的な生態や、分布等の生息状況がどの程度把握されているか等が紹介されました（図 1）。話題提供者は、スタッフである千本木からツキノワグマ、鉄谷からアライグマ・アメリカミンクについて、さらにアクアマリンふくしまの荒木氏に加わっていただき、福島県内のカヤネズミの生息状況について、お話いただきました。

ワークショップのテーマは「野生動物の生息状

況を把握する」とし、班ごとにツキノワグマ、アライグマ、カヤネズミの生息状況を把握するために、どのような方法があるか、どのようなことができるかを話し合いました。しかし、今回のワークショップの目的は、テーマの答えを出すことなく、できるだけ多くの参加者と交流を持つことです。そのため、ワールドカフェという方法で行われました。ワールドカフェを簡単に紹介すると、1) 班ごとにカフェホストを決める、2) 意見を出し合う、3) カフェホスト以外の人は班を移動する、4) カフェホストは移動してきた人に前回までに出た意見を説明する。この 2~4 を複数回繰り返し、最後に結果を共有する方法です。また、班を移動する際は、できるだけ違う班に入るようにします。この方法により、班のメンバーが固定されたワークショップより、多くの人と意見交換ができました。

個人的な感想としては、自己紹介に長く時間をとったこと、普段関わりのないカヤネズミの話が聞いたことがとても印象に残っています。開催後の参加者アンケートを見ても、自己紹介やワークショップの評価は高く、一方で、フリートークの

表 3. 2025 年度交流会の内容

時間	内容
10:30～10:40	開会あいさつ（けもネット代表：佐藤洋司）
10:40～12:00	参加者自己紹介（1 人 3 分程度）
12:00～13:00	昼休憩
13:00～13:45	話題提供 ● クマの分布について (株式会社 BOULDER：千本木洋佑) ● アライグマ等の生息状況について (株式会社野生動物保護管理事務所：鉄谷龍之) ● カヤネズミの生息状況について (アクアマリンふくしま：荒木美紀 氏)
13:45～16:45	ワークショップ「野生動物の生息状況を把握する」
16:45～17:00	総括・閉会（けもネット代表：佐藤洋司）
18:30～21:00	懇親会



図1. 話題提供：カヤネズミの生息状況について



図2. ワークショップの結果発表



図3. けもネット代表による挨拶

時間が欲しい等の要望がありました。この要望への対応は、次回以降の検討になると思いますが、このような意見があるということは、けもネットの目的と参加者の要望が一致していると考えられ、次回開催の励みになると感じました。

■ 今後の活動について

けもネットは法人でも何でもない任意団体です。会費も集めているわけではありません。イベントごとに必要経費を集めていますが、現在は交流会が年1回行われるイベントです。この交流会の参加は会員以外にも広く呼び掛けています。おかげさまで学生や社会人の若い方の参加も毎年一定数います。

昨年は学生が行う巣箱調査に協力する活動も始まりましたが、代表の私としては、サルのカウント調査のような大掛かりなフィールドワークに会として関わることで、野生動物関係者の育成、調査技術の伝承、おいしい酒飲みができないかと考えています。

会員は福島県内の野生動物に関心のある方なら誰でも入ることが可能です。正直、入ったからといって特に大きなメリットもないのですが、県内の野生動物関係の情報を集めやすい、会員が行う調査に参加することができるなどがメリットになります。来年度の交流会に向けての準備も始まりました。興味のある方は、是非一度交流会に参加してください。

けもネット連絡先

kemonet.fukushima@gmail.com